

## 土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。もし、下に示すような前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、町役場・警察・消防にご連絡ください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害が発生するのかわかりませんが、確認しておきましょう。

<h3>がけ崩れ</h3> <p>地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。</p>	<h3>土石流</h3> <p>長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。</p>	<h3>地すべり</h3> <p>大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。</p>
--	---	---

## こんなときは要注意 土砂災害の前兆(前兆現象)

五感	移動主体	がけ崩れ	土石流	地すべり
視覚	山・斜面・がけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>がけに割れ目が見える。</li> <li>がけから小石がパラパラと落ちる。</li> <li>斜面がはらみだす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>渓流付近の斜面が崩れだす。</li> <li>落石が生じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地面にひび割れができる。</li> <li>地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする。</li> </ul>
	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面流が生じる。</li> <li>がけから水が噴き出す。</li> <li>湧水が濁りだす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の水が異常に濁る。</li> <li>雨が降り続けているのに川の水位が下がる。</li> <li>土砂の流出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沢や井戸の水が濁る。</li> <li>斜面から水が噴き出す。</li> <li>池や沼の水かさが増減する。</li> </ul>
	樹木	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木が傾く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>濁りに流木が混じりだす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木が傾く。</li> </ul>
	その他	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>渓流内の火花。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家や擁壁に亀裂が入る。</li> <li>擁壁や電柱が傾く。</li> </ul>
音		<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木の根が切れる音がある。</li> <li>樹木の揺れる音がある。</li> <li>地鳴りがする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地鳴りがする。</li> <li>山鳴りがする。</li> <li>転石のぶつかり合う音。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木の根が切れる音がある。</li> </ul>
におい		—	<ul style="list-style-type: none"> <li>腐った土のにおいがする。</li> </ul>	—

※上記は一般的な前兆です。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

## こんなときは、ため池にも要注意！

<h3>大雨のとき</h3> <p>●大雨のとき、ため池の水位が上昇し堤防を越えた水の勢いによって堤防が侵食され、決壊することがあります。</p> <p>●竹や流木が洪水吐の断面を閉塞させると、堤防を越流しやすくなり、侵食・崩壊の危険性は、一層高くなります。</p>	<h3>大地震のとき</h3> <p>●大地震のときに、ため池の堤防が異常な力を受け亀裂が生じたり、地盤の液状化により決壊する危険性があります。</p> <p>●比較的小さな地震でも、堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下し、水圧に耐えきれず決壊に到ることがあるので注意が必要です。</p>
---	---

## 避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。

<p><b>状況により、すばやく避難しましょう！</b> 町から情報が来る前でも、雨の状況などから判断し、避難しましょう。</p>	<p><b>避難する前にブレーカー等の確認を！</b> 復旧時の火災・事故を防ぐため、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。</p>
<p><b>住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう！</b> 特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。</p>	<p><b>集団で助け合おう！</b> 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。</p>
<p><b>車での避難は控えて！</b> 車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。</p>	<p><b>安全なルートで！</b> 川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。</p>
<p><b>持ち出し品は最小限に！</b> 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。</p>	<p><b>避難所では係の人の指示に従いましょう！</b> 避難所に着いたら、住所、氏名を報告しましょう。</p>

## 避難行動 立退き避難・屋内安全確保と緊急安全確保

水害や土砂災害の避難行動は、ためらわず災害リスクのない安全な場所へ早めに「立退き避難」することが基本です。また、浸水しない自宅の上階への避難や上層階に留まる「屋内安全確保」により身の安全を確保することも有効です。立退き避難を行う必要があるにもかかわらず、適切なタイミングで避難することができなかった場合などは、少しでも浸水しにくい高い場所やがけから離れた場所に避難し、身の安全を可能な限り確保する「緊急安全確保」を行ってください。

計画的な避難行動	緊急的な避難行動
立退き避難	緊急安全確保
<p>避難行動の基本です。</p>	<p>長時間の孤立に備え、水、食料などを備蓄しておきましょう。</p>
<p>屋内安全確保</p> <p>▲想定浸水高さ</p>	<p>逃げ遅れた場合の行動です。身の安全を確保できるとは限りません。</p>

## 感染症対策

### 避難所における感染症対策

避難所は災害の規模により多くの方が避難する場合があります。新型コロナウイルスに限らず、風邪や季節性インフルエンザなどの感染症を予防するため、右記の感染症対策の実施が重要です。

また、感染症対策により避難所の受入れ人数が制限されている場合がありますので、自宅の浸水しない階への垂直避難や親戚・知人宅への避難など、避難所以外の避難先も検討しておいてください。



- まめに手洗い・手指消毒
- マスクの着用
- 咳エチケットの徹底
- こまめに換気(エアコン併用で室温を28℃以下に)
- 身体的距離の確保
- 「3密」の回避(密集、密接、密閉)
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合は無理せず自宅で療養